

サイバーセキュリティや災害対策など 時代ニーズに対応した最先端のソリューションを創出!!

1957年に創業した経緯は「システムソリューション」「ネットワークソリューション」「電子部品及び機器」という3つの事業領域を展開中。商社として最先端の技術や製品を取り扱うだけでなく、磨き抜かれた自社技術を最大限に活用し、時代ニーズに対応した事業をつぎつぎと創出している。その特色や強みについて、同社の社員の皆さんに聞いてみた。

独自開発のVRサービスが 災害対策などに貢献

「まずは御社の事業概要から伺いたいと思います。」

当社は「企業活動の『質』、『速度』、『量』を高め、『技術革新』の追求を通して『社会』に貢献します」という企業理念の下、世界の最先端の技術や製品を核とした多彩なソリューションを「システムソリューション」「ネットワークソリューション」「電子部品及び機器」という3つの事業領域で展開しています。

——システムソリューション領域についてはどのようなビジネスを展開しているのですか。

民間企業、大学、官公庁、研究機関に対し、情報セキュリティ、IT基盤(CAD、AI、IoT、VR(バーチャルリアリティ/仮想現実)などのソリューションを提供しています。情報セキュ

リティのなかで取り扱う製品のひとつに「BeyondTrust Remote Support」というものがあります。これはセキュリティリスクが高いことが問題視されている

VPN(仮想専用通信網)を使用せずに、PCの遠隔操作を可能にするシステムです。米国のBeyondTrust(旧・Bongar)社製で、現在は同社の総代理店を務めている(株)ブロード(東京都千代田区)と協力しながら、このシステムの普及促進に取り組んでいます。また、いかに優れたシステムを導入しても簡単にサイバー攻撃を受けるようでは意味がないので、ブロードとはサイバーセキュリティに関しても協力体制を構築。マイクロVM(仮想パソコン)を介して、メールやインターネットなど外部から受け取るファイルのすべてを安全に開けるようにする「HP Sure Click Enterprise

(HP SCE)」の販促などにも共同で取り組んでいます。

また、こうした協業で実現する利便性と安全性の向上を生かして、昨今はホテルの建設ラッシュにあわせて、ホテル・施設向けのインターネットアクセス機器の提供にも力を入れています。情報システムの担当者が遠隔地からインターネット経由でも安全に遠隔操作ができるBeyondTrust Remote Supportのほか、ホテルやコワーキングスペースなどの利用者がモバイル端末などの設定を変更せずにインターネットにアクセスできるシステムなどを提供中です。すでに累計500軒以上のホテルに納品していますが、今後は2025年の大阪・関西万博開催に向け、さらに販路を拡大していきたいと考えています。

——VR関連のサービスとしては、どのようなものがあげられますか。

VRを活用し、自動運転用AIや自律飛行ドローンAIの開発をサポートするサービスを提供しています。また、自治体向けには土砂災害の危険性と早期避難の重要性を啓発する「土砂災害体験VR」を展開しているほか、火災や地震を体験できるものなども提供中です。なお、これらのVRはいずれも当社のエンジニアが米国の大手ゲームメーカーであるEpic Games社が提供するUnreal Engine(UE4)制作プラットフォームを用いて開発したもので、その技術は社外からも高く評価されており、今年1月にはUnreal Engineのトレーニング機関として認定されました。今後はEpic Games社の多様なトレーニングプログラムも利用できるようになるので、社内外のエンジニアにより実践的な研修を行えるようにな

ると思います。

——災害対策にはそのほかにもさまざまなニーズがありそうですね。

人手不足に悩む自治体の声を受けて開発した統合防災情報配信システムはまさにその典型です。これはJアラートのほか、さまざまな情報ソースを受信し、実際に、防災行政無線自動起動装置、ケーブルテレビへのテロップ割り込みデータ放送、コミュニティFMへの割り込み放送、デジタルサイネージ、緊急速報メール、多言語メール、登録制メール、SNS(Twitter、Facebook)、ホームページ、IP告知放送など多様な伝達手段にその内容を自動連携するというシステムです。通常は自治体職員がこれらの一つひとつに連携対応しなければならぬのですが、これさえあればスピーディかつ的確に地域住民に緊急



左から理経執行役員ビジネスイノベーション部担当の横山晋司氏、ビジネスイノベーション部部長代理の大町貴氏、広報広告グループ長の三宅育代氏、ビジネスイノベーション部プロダクトセールスグループ担当グループ長の伊藤誠一氏

性の高い情報を届けることができるとあって好評です。
 — そのほか、システムソリューション領域にはどのような新規事業がありますか。
 新規事業のひとつに顔認証を応用した誤乗防止システムがあります。これはもともと当社がブラッシュアップしてきた製造業向けの顔認証技術を利用者への投棄を行う際に顔認証と分

包された葉に印字されたQRコードを照合することで、利用者との違いを防止するというものです。利便性と安全性を高めるこうした認証システムのニーズは、さまざまな分野で盛り上がりつつあります。
多様な技術を掛け合わせ シナジー効果を発揮
 — ネットワークソリューション領域についてはどうでしょうか。

「届けたいものを、届けたいところへ」というモットーの下、放送、通信、自治体などに対し、最先端のソリューションを提供しています。その範囲は非常に幅広く、ハイエンドな映像・音声処理を実現する最新機器はもちろん、各国の衛星モデム、各種アンテナをはじめとした衛星通信関連製品も提供しています。今後は低軌道衛星から得たデータの活用により、防災、農業、漁業などの

地域課題解決にもチャレンジしたいと考えています。
 — そのなかでとくにユニークなものはありませんか。
 たとえば、無線通信にはまだまだ可能性があると感じています。現在、当社では携帯・5G基地局用途や4K高精細映像の伝送など、高いスループット（一定時間内のデータ転送量）が必要な場合の無線環境を提供しているのですが、災害などで有線ケーブルが断線された場合でも、こうした無線通信網があればインターネット環境を維持することができそうです。そこで、リスクヘッジの観点から、最近では自治体や企業などにも積極的に無線通信の営業をかけているところなんです。
 — 最後の電子部品及び機器についてはいかがですか。
 産業機器分野から、自動車、医療、光通信、安全保障などの分野にいたるまで、光ファイバや導電性接着剤をはじめ、幅広く電子部品や電子機器、機性能材料を提供しています。

— いずれの領域についても、たんに商社として技術・製品を扱うだけでなく、独自のアレンジを加えているのですか。
 その通りです。いずれも顧客の用途に合わせて、最適な機器を選択したうえでシステムを設計・構築するなど、一貫通貫のサービスをしています。ちなみに弊社の募張技術センター、支店、事業部門にはSEやサポート技術要員が30名ほどおり、営業と一体になって顧客ニーズへの対応、顧客満足度の向上に全力を投じています。
 — その背景には、どのような社風があるのでしょうか。
 手前味噌ではありますが、当社の風通しの良さが強みになっていると思います。実際、現在のオフィスには壁や仕切りが一切なく、毎日、活発に議論が交わされています。おかげで、情報共有がスムーズに行われ、時代ニーズにいち早く対応できるようになったのだと思います。
 — 今後の展望についてお聞かせください。
 従来の事業領域の枠を越え、顧客満足度をさらに高めるビジネスを創出できればと考えています。たとえば、ホテル向けのソリューションについても従来のシステムだけでなく、VRでホテルやその周辺情報を発信するなどすれば、集客に貢献できるサービスを生み出せるかもしれません。

今までの「常識」は、すでに「非常識」!

もう無駄な時間と費用は「0」にしましょう

HP Sure Click Enterprise

HP Sure Click Enterprise に進化しました

エンドポイントのサイバー対策に関する費用や専門家は、もう必要ありません。100%* 防御し、レポートします。是非ブロードにお問い合わせください。

*2013年以降、Bromiumは推計20億以上のMicroVMが実行されましたが、侵害報告件数はゼロです。(Bromium社調べ)

詳細は [BROAD Security Square] で <https://bs-square.jp/columbus>

株式会社ブロード 〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-30 サウスビル永田町7F
TEL: 03-6205-7463 (代表)